

平成 30 年度第 3 回古賀市スポーツ推進審議会【環境部会】会議録  
(要約筆記)

(座長)

- ・平成 30 年度第 3 回古賀市スポーツ推進審議会環境部会を始める。どうぞよろしくお願ひいたします。
- ・前回の振り返り及び確認を行った後に、10 年後の古賀市スポーツ環境(ソフト・ハード)はどうなっているか、どうなつていて欲しいかを協議する。
- ・議事録と環境部会の協議内容をまとめた資料を作成している。
- ・前回、施設と情報の一元化について意見を出した。宗像市体育協会の研修会に参加した際に利便性の追求ということで一元化を実施していた。参考になればと思っている。
- ・まず「スポーツ施設の有効利用について」意見をいただきたい。

(委員)

- ・今年から筑紫丘高校 OB が運営するジュニアラグビースクールの指導を始めた。小学 3 年生を受け持っている。ラグビーの練習は毎週日曜の午前中だけ行っている。
- ・子ども達に何を教えればいいのか。と考えると、「ジュニアスポーツ団体は、練習しすぎではないか」と感じた。
- ・施設の利用実態を見ると、固定された同じ人がずっと使用している実態がある。それが有効活用だとは思わない。
- ・今のジュニアスポーツ団体のあり方や練習の量についてガイドラインを示したら、施設の飽和状態とはならないのではないか。
- ・スポーツは、する人としない人の二極化しているとよく言われる。この現状は解消しなければならないと考える時に「場所がない」とならないようにしなければならない。
- ・新しい施設の建築は難しい。限られた施設をどう有効的に使用していくかを考える必要がある時に、ジュニアスポーツ団体の練習のあり方は大きなテーマとなると思う。

(座長)

- ・子ども部会でも出てくる意見だと思うが、環境部会の施設利用の観点から考えると同じ意見となる。

(委員)

- ・「施設が足りない」という意見と、「練習が多すぎる」という意見は一緒に考えなければならないと思う。

(座長)

- ・幅広い市民への施設の有効活用ということか。

(委員)

- ・使用している団体の実態を検証するのであれば、延べ人数ではなく年代別の利用人数を把握する必要がある。
- ・練習が多すぎることについては、親の負担が多いという課題もある。
- ・ジュニアスポーツ団体の指導者を育成すれば練習量も減り、施設面ではより幅の広い市民が利用できるようになる。
- ・施設を有効活用するためには、たくさん的人がスポーツできる環境でなければならない。二極化も防がなければならない。

(座長)

- ・10 年後になりたい姿として、どのように表現したらいいか。

(委員)

- ・10 年後、後期高齢者は約 2 千人増える。その分 15 歳から 64 歳の人数は減る。子どもも減ると考えると、ジュニアスポーツ団体も今より衰退する可能性が大きい。

(委員)

- ・10 年後人口が減ることを考えると、施設ごとに種目を決めて「そこに行けばこのスポーツができる」という場所をつくっていくことが必要だと思う。ヨーロッパにあるクラブチームやクラブハウスをイメージしてしまう。

(座長)

- ・10 年後総合型地域スポーツクラブができて、ジュニアスポーツ団体も所属すればクラブが施設を分配していくこともできるかもしれない。

(委員)

- ・ヨーロッパでは学校が終わった子ども達が施設に集まって、ホッケーやラグビー、サッカーができる場所が隣接している。それぞれ15時くらいに小学生が集まって、その後中学生が集まっている。遅くなると高校生や大学生、トップチームが来て時間ごとに使用時間も決まっている。もちろんそこにはスポーツをする高齢者も集まっている。
- ・10年後は「ここに行けばこのスポーツができる」拠点が必要で、多世代が集まる場所になるのではないか。

(座長)

- ・2つの意見が出された。①ジュニアスポーツ団体の指導者の育成により正しい練習時間で実施すれば、より多くの市民が施設を利用できるようになるのではないかということ。②総合型地域スポーツクラブのような「ここに行けばこのスポーツができる」拠点が必要ではないかということ。

(委員)

- ・筑紫丘高校OBが運営するジュニアラグビースクールは、土日ラグビーチームと一緒に練習しているのか。

(委員)

- ・一緒に練習している。サッカーチームや野球部も一緒に練習するときもある。

(委員)

- ・いい環境だと思う。関東関西の有名な私大では土日に地域の子ども達を指導したりしている。
- ・玄界高校のホッケーチームもクラブチームのようにしていて、「いつでも来ていい」ようにしている。今は親がホッケーを経験した子ども達が一緒に来て、遊ばせたりしている。この取組が広がって行けばと思う。

(座長)

- ・花鶴3号公園などは一部の団体が使用している。施設の一元化を実施するとき運動施設のある公園も含まれるのか。

(事務局)

- ・含まれる。

(座長)

- ・民間の施設は、福岡銀行のグラウンドや九州古賀の利用しているグラウンドや球場がある。
- ・保育所や幼稚園の園庭は地域で使えるかもしれないが狭い。
- ・スポーツ振興基本計画では、練習のあり方や幅広いスポーツ経験も含め指導者への教育や育成の必要性を記載することになると思う。

(委員)

- ・指導者の資格なども考えていく必要もあるかもしれないが、ハードルを上げるとしにくくなる。しかし、ある程度の知識を持たないと長時間の練習など間違った指導につながってしまう。

(事務局)

- ・社会体育施設を利用する団体の指導者には、年に何度か研修会への参加を義務付けるなどの決まりをつくることも必要なのかもしれない。

(座長)

- ・指導者は各協会のスポーツ指導者講習会や、古賀市の行う研修会に参加した方が行うなど決めることも必要なのかかもしれない。

(委員)

- ・上級コーチの資格を持っている人が指導員の講習会をすれば、申請すると指導員の資格が与えられる事もある。

(座長)

- ・次、スポーツ施設予約の一元化について意見をうかがう。

(委員)

- ・担当していた当時、小学校の体育館やグラウンドは、小学校校区単位のコミュニティで受付を行うと、地域の人が中心に利用することとなる。地域で利用調整を行った方がバランスは取れるのではないかという意見もあった。

(座長)

- ・宗像市は、コミュニティに予算をつけて施設の受付も含めて総合型地域スポーツクラブで運営するような仕組をついている。
- ・古賀市の場合は野球やバスケットボールなど3・4校から集めているチームがあるが、小学校区単位で施設管理を行うとそれを解消しなければなくなる。
- ・古賀市はジュニアスポーツ団体が盛んで歴史がある。勝利至上主義的な風潮がある。

(事務局)

- ・前回の地域部会の議事録には総合型地域スポーツクラブについての意見があった。その中では小学校区単位ではなく体育協会が中心となった総合型地域スポーツクラブを1つ作ってはどうかという意見だった。
- ・ただ、総合型地域スポーツクラブは実現できておらず、課題も多いため難しいという意見もある。

(委員)

- ・小学校区で実施するより、体育協会で行う方がいいのかもしれない。

(座長)

- ・指定管理が受けれる事ができるような体育協会の組織体制が確立できればできると思う。
- ・体育協会の組織や運営の拡充が必要となる。
- ・次、効果的な情報提供について意見をうかがう。

(委員)

- ・スポーツをやってみたいと思って、正しい知識を身につけずに指導者の言うとおりにしていたら怪我をしてしまう。その時に初めて今までのやり方に疑問を感じことがあると思う。
- ・スポーツをやってもらうためには、楽しいイベントだけではなく、これからは正しい知識を身につける啓発的な取組がいいのではないか。そこにイベントを付けられれば、なおいいと思う。
- ・健康スポーツの日も「新しいスポーツに出会いましょう」を掲げて始めたが、なかなか参加者が集まらなかつた。
- ・今年度は講演会と走り方教室を同時に行うのは新しい。この内容ではあれば親世代も運動はしないけれど、子どもの為に参加しようと思うのではないか。
- ・健康づくりや高齢者支援と一緒に、スポーツに関する情報発信を週1でもいいので定期的に継続的に行うことが大切だと思う。
- ・その中でイベント情報を発信すれば意識の高い市民が参加するのではないか。

(委員)

- ・部活動をしているPTAの保護者は、子どもの為に「運動をするときにどのような食材を摂取したらいいか」など食事の知識を得たいという意見を聞く。
- ・スポーツをする上で食事の事やけがの防止の事、ウォーミングアップの事を発信していくと保護者は子どもの為に興味関心があると思う。

(委員)

- ・定期的に行うことが大切である。

(事務局)

- ・警視庁警備部災害対策課が気象情報、防災に関するミニコラムなどを中心に定期的にツイートしていて、多くの人が関心を持って情報を得ている聞いたことがある。
- ・そこを見れば、スポーツに関する情報が必ず得られる場所ができたと思う。

(座長)

- ・体育協会も連携して行っていきたい。
- ・次、地域における運動・スポーツ事業の促進について意見もうかがう。

(委員)

- ・体育協会に所属する団体はどのくらいあるのか。

(座長)

- ・加盟団体は19団体である。

(コーディネーター)

- ・古賀市は、10年くらい総合型地域スポーツクラブをめざして来ているが実現できていない。日本文化には合わないという意見もある。

(座長)

- ・社会体育施設は、ジュニアスポーツ団体が占有している現状がある。この状態を変えないと、他の子ども達や地域の人達の利用へ広がらないのではないかという意見が出ている。今ある施設を有効活用するために、指導者への研修や啓発が必要であると考えている。

(コーディネーター)

- ・古賀市にスポーツ少年団はないと聞いて驚いた。

(座長)

- ・單一種目のジュニアスポーツ団体が多くある。

(コーディネーター)

- ・何かスポーツをしたいという子ども達たちは、いつでも加入できる状態にあるのか。

(座長)

- ・いつでも加入できる。

(コーディネーター)

- ・ジュニアスポーツ団体の指導者は共通した知識を学ぶ場はないのか。
- ・指導者を育成する場があるといいと思う。古賀市が「子ども達をどのように育てていきたいか」など伝える機会があればともに子ども達を育てていく団体同士に交流なども生まれていくのではないか。

(座長)

- ・体育協会で担うべき役割が多くあると感じている。

(委員)

- ・総合型地域スポーツクラブを実施するためには、地域づくりの視点も持つて行わなければならない。
- ・指導者に対して、子どものスポーツに関する指導教本を作成している市もある。それを学ばないと子どもの指導者として認めないところもある。子どもの練習は週に何日、1回何時間以内などを決めている。
- ・すぐに浸透することは難しいかもしれないが、10年後正しい知識の元でスポーツが行われている古賀市をめざしてはどうか。
- ・バラバラな考え方で行っていくのはよくない。全ての団体が共通認識を持たないと一部の団体にだけ厳しいなど誤解を招くこととなる。

(座長)

- ・古賀市には国体に使われる施設(馬術場やスケボーパークなど)がある。有効活用できることなどはないか。

(コーディネーター)

- ・市主催の大会などを行うことや、競技をする子ども達の聖地となるような施設にするといいのではないか。
- ・古賀市には、古賀市といえば「このスポーツ」というものがないように感じている。ウォーキングやジョギングをしている市民はたくさんいる。

(委員)

- ・玄界高等でホッケーを行っている。全国大会に出場している選手や代表の手前まで成長している選手もたくさんいる。
- ・東京オリンピックもあるので、ホッケーに対する関心も高い。10年後には根付いたスポーツであって欲しい。そのためには施設も必要である。
- ・宗像市がチャレンジ宗像で、ラグビーやフットサル、陸上など講師を呼んで実施している。先日ホッケーの講師として参加してきた。子ども達の意欲も高く去年参加した子が今年も参加していた。
- ・チャレンジ宗像に参加する子ども達は皆同じポロシャツを着ている。
- ・いろいろなスポーツの講師を招いて、年間を通して継続的に行っているイベントでとても魅力的だと思う。

(座長)

- ・体育協会では現在各協会にこがっ子元気アップチャレンジと出前講座への参加やその内容についてアンケート調査を実施して、今後の活動について検討を始めている。
- ・所属する競技団体のことだけでなく、まちづくりや健康づくりに関わる団体になって欲しい。時間をかけて意識改革をすることが必要だと感じる。

(委員)

- ・競技団体には、その競技を子ども達に伝える役割があると思う。その機会を単発的なイベントではなく年間計画を立てて継続的に行なうことが大切だと思う。

(座長)

- ・第2次スポーツ振興基本計画を策定したら、必要に応じて体育協会の今後の計画も見直す予定である。

(事務局)

- ・地域における運動・スポーツ事業の促進について他にないか。

(委員)

- ・社会体育備品は高価なものが多い。市が持つことによって地域の負担は軽減されていると思う。しかし流行りがあると思う。10年後どのような軽スポーツのニーズがあるか難しい。
- ・今後、市が社会体育備品を持つ必要があるか検討する必要がある。

(座長)

- ・今住んでいる地域では、地域行事が多く、わざわざ社会体育備品を借りてまで何かすることまではしない。

(委員)

- ・軽スポーツは施設(する場所)とセットで考えるべきだと思う。する場所と道具があるから「やってみようか」と思うのではないか。道具を借りて場所を準備して、わざわざ行なうことは難しいように感じる。
- ・地域では買えないが、ニーズが多いスポーツだけ市が準備するだけで十分ではないか。
- ・ボルダリングは今人気でニーズも多いと思う。ボルダリングの全国大会に行く子に聞いてみると、アクション福岡まで行って練習をしていたと言っていた。

(座長)

- ・近隣自治体との広域連携の推進についての意見をうかがう。

(委員)

- ・体育施設の広域利用は今後必ず必要となると思う。競技スポーツと個人スポーツどちらにも言えると思う。
- ・自分の住んでいる市に施設がなければならないという考えでは今後は維持管理できない。

(座長)

- ・仕組づくりが必要である。既にバスケット協会では宗像市と合同で練習をしている。今後は、ジュニアスポーツ団体同士のつながりも必要となる。
- ・こがっ子元気アップチャレンジの当初の目的の1つとして、学校体育施設を地域に開放することと、子どもの体力向上だけでなく大人も一緒にスポーツができる機会となればという意味もあった。
- ・体育協会でも、10年後地域のスポーツ交流が実現できればという話になっている。吉賀市内はもちろん近隣市町村でも実施できたらいいのではないか。
- ・10年後吉賀市の環境はどうなって欲しいのか話し合ってきた。具体的なアプローチ方法までは決めていないが多く意見が出された。

(委員)

- ・今の社会体育施設をどのように維持していくかは大切な課題だと思う。
- ・これまで、施設と一緒に維持してきた団体が有料化になった途端「全ての維持管理は市が行なうべき」という意見に変わったと聞いている。
- ・どの課題にも言える事かもしれないが、これから「全て行政にしてもう」という姿勢では市は前に進まない。もちろん大規模改修などは市が行なっていくが、日頃の維持管理は利用者とともにしていくようにしなければいけないと思う。

(座長)

- ・体育施設に限った課題ではない。生涯学習センターや公園など公共施設全般に言える事だと思う。維持管理は市民参画で行っていく意識を持ってもらう必要がある。

(委員)

- ・自分たちの利用する施設に愛着を持ち大切にするようになって欲しい。
- ・10年間で維持管理のあり方や意識の変革が必要である。それが施設の有効利用につながると思う。

(座長)

- ・施設や備品を大切に使っている団体は、日頃から挨拶やスポーツに対する姿勢もきちんとしているように感じる。
- ・体育協会に入ってみんなでスポーツを楽しみながら、まちづくりに貢献していくという組織づくりができていけばと思う。
- ・クロスパルコがの維持管理は大変だと思う。今水はどのようになっているのか。

(事務局)

- ・水道と井戸を半分ずつ利用している。

(座長)

- ・一つの意見として、クロスパルコがのプールの維持管理には大きな負担があると思う。
- ・市内の小学校にはプールもあるので、クロスパルコがのプールをフロアにして、他の利用ができるような大きな見直しも必要ではないか。

(委員)

- ・移動時間などの課題もあるが、市内の各小学校のプールの方が大きな負担になっていると思う。年間で決まった期間しか利用しないプールを廃止して民間などを活用していく考えもある。

(委員)

- ・玄界高等学校にはプールは設置していない。必要な時には民間のプールを利用している。

(委員)

- ・クロスパルコがのプールやお風呂には多くの維持管理費がかかっている。今後のあり方は検討していく必要があるのは間違いない。

(座長)

- ・クロスパルコがと民間施設の有効活用は今後必要だと思う。

(委員)

- ・スポーツジムについては、民間もあるので必要ないのではないか。

(事務局)

- ・施設として、今後のあり方を検討していく必要があると思う。

(委員)

- ・今後新しい公共施設を建てる事は難しくなってくると思う。
- ・高齢者に近くの公民館を利用して欲しいが、どうしても大きな施設に集まりがちになる。クロスパルコがの施設のあり方は今後検討課題の1つである。

(座長)

- ・計画にクロスパルコがを「スポーツの拠点」として記載するのは難しいのか。
- ・クロスパルコがのアリーナは、もっと有効活用できるようにして欲しい。せっかく市が建てた体育館なのに使い勝手が悪いように感じる。プールやジムもあるが、まずはアリーナからでも施設の一元化の時に追加してもっと多くの市民利用できるようにして欲しい。

(事務局)

- ・次回は各部会でまとめられた意見を発表して全員で共有する。会議録と出された意見をまとめた資料をメールで送るので追加や修正があれば連絡をお願いしたい。

(座長)

・以上で、第3回古賀市スポーツ推進審議会の環境部会を終了する。ご協力ありがとうございました。